

# 平成27年度 事業報告書（概要）

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

学校法人 奈良学園

## 目次

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～5
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 5)
7. 学校別の土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～23
1. ハイライト	(P. 6～11)
(1) 奈良学園大学（奈良産業大学） －地域連携と知名度向上に向けて	(P. 6)
(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 －学修成果：ソーシャルスキル自己評価表から－	(P. 7)
(3) 奈良文化高等学校 －2年目を迎えた食文化コースの取り組みと生徒主体の学校作り－	(P. 8)
(4) 奈良学園中学校・高等学校 －SSH校として活動を充実－	(P. 9)
(5) 奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 －繋がる学びと教育力－	(P. 10)
(6) 奈良文化幼稚園 －わんぱくの森プロジェクト－	(P. 11)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 11～21)
(1) 奈良学園大学（奈良産業大学）	(P. 11～14)
(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	(P. 14～16)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 17～18)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 18～19)
(5) 奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 19～20)
(6) 奈良文化幼稚園	(P. 21)
IV. 財務の概要	P. 22～27
1. 最近の投資と財務の状況	(P. 22)
2. 平成27年度決算の概要	(P. 23～27)
(1) 資金収支の概要	(P. 23)
(2) 事業活動収支の概要	(P. 24)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 25)
(4) 平成27年度財産目録（概要）	(P. 26)
(5) 監査報告書	(P. 27)

[奈良学園大学 教育研究活動等の状況](#)（大学のページに移動します）

[奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 教育研究活動等の状況](#)（短期大学部のページに移動します）

## I. はじめに

本学園では、経営環境が厳しさを増す中で、平成 21 年度には日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、抜本的な経営改善を行う目的で平成 22 年度から 5 か年間にわたる「経営改善計画」を策定した。平成 22 年度に入って、文部科学省による学校法人運営調査の対象法人となり、実地調査を受けた結果、平成 23 年度から 27 年度までを対象年度とする改訂版「経営改善計画」を策定するに至った。

平成 23 年度以降、この改訂された「経営改善計画」のもと、「教学改革計画」、「学生・生徒・児童・園児募集対策と学納金計画」、「人事政策と人件費の削減計画」、「経費削減計画」、「施設等整備計画」等の各改善・改革に取り組んできた。さらに「高等教育を再編し持続可能な教育機関とする」ことを推進するため、平成 23 年 7 月に高等教育検討委員会を立ち上げた。この委員会により平成 24 年 1 月には、「高等教育の再編と再生に関する答申書」がまとめられた。

平成 24 年度は、この答申を受けて実行を進めるための組織である「高等教育改革推進委員会」、「高等教育改革推進室」を設置し、検討を行った。結果、平成 26 年度に奈良産業大学の名称を奈良学園大学に変更すること、人間教育学部人間教育学科、現代社会学部現代社会学科並びに人間社会学科、保健医療学部看護学科の 3 学部 4 学科を設置申請することを決定した。なお、このことから、平成 26 年度から既存のビジネス学部ビジネス学科及び情報学部情報学科の学生募集を停止することとした。また、三郷キャンパスに人間教育学部と現代社会学部を配置することとし、保健医療学部は登美ヶ丘キャンパスを利用することを決めた。これに関連して、登美ヶ丘キャンパスにある奈良文化女子短期大学の名称を、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更し、総合学園としてのブランド力向上に資することとした。さらに、平成 25 年 1 月 7 日からは前述の委員会及び室を「(仮称) 奈良学園大学設置準備委員会」、「同設置準備室」に改編し、設置に向けた業務を強力に押し進めていくこととした。

しかしながら平成 25 年 8 月、現代社会学部については、申請を断念せざるを得ない状況となり、人間教育学部と保健医療学部の 2 学部でのスタートとなった。そのため、「学校法人奈良学園高等教育整備拡充委員会」を設置し、収支の均衡を前提とした中長期的な財政計画を多角的に策定・実行し、経営基盤の安定確保に取り組むこととした。

平成 27 年度は「第 1 期経営改善計画」は最終年度を迎えたが、「第 2 期経営改善計画」を策定するに際し高等教育・初等中等教育共に、各校が認識する教学改革や募集対策等の諸課題に取り組んだ。特に高等教育では、整備拡充委員会にて「高等教育の整備拡充に関する答申書」がまとめられた。これを受け平成 27 年 7 月に大学改革委員会と 3 つの WG が設置され、新学部等の設置に向けて文部科学省へ事務相談に赴くなどの活動を開始した。

## II. 法人の概要

### 1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学附属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、附属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学附属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学附属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。
平成 26. 4	奈良産業大学を奈良学園大学に名称変更し、人間教育学部人間教育学科入学定員 120 人、保健医療学部看護学科入学定員 80 人を設置。 奈良文化女子短期大学を奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更。 奈良文化女子短期大学附属幼稚園を奈良文化幼稚園に名称変更。

### 2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 28 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園大学	※ <sup>1</sup> 〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1 ※ <sup>2</sup> 〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127

注)※<sup>1</sup> 三郷キャンパス (人間教育学部、情報学部、ビジネス学部)

※<sup>2</sup> 登美ヶ丘キャンパス (保健医療学部)

### 3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成 27 年 5 月 1 日現在

学校名	学部等	入学定員	収容定員	現員	備考
奈良学園大学	人間教育学部	120	240	215	H26.4 設置
	保健医療学部	80	160	179	H26.4 設置
	情報学部	200	400	57	H26.4 募集停止
	ビジネス学部	200	400	166	H26.4 募集停止
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	幼児教育学科	100	200	248	
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	110 <sup>※1</sup>	330 <sup>※2</sup>	308	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	250	
	全日制課程 衛生看護専攻科	80	160	145	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	200 <sup>※3</sup>	600 <sup>※4</sup>	614	
奈良学園中学校		160 <sup>※5</sup>	480 <sup>※6</sup>	460	
奈良学園登美ヶ丘高等学校	全日制課程 普通科	120 <sup>※7</sup>	360 <sup>※8</sup>	337	H21.4 開校
奈良学園登美ヶ丘中学校		160 <sup>※9</sup>	440 <sup>※10</sup>	400	H20.4 開校
奈良学園小学校		90 <sup>※11</sup>	600 <sup>※12</sup>	444	H20.4 開校
奈良学園幼稚園		35	155	109	H20.4 開園
奈良文化幼稚園		60 <sup>※13</sup>	180 <sup>※14</sup>	207	

- ※1 募集人数。入学定員は 120 人。※2 各学年の募集人数の合計。収容定員は 360 人。  
 ※3 募集人数。入学定員は 240 人。※4 各学年の募集人数の合計。収容定員は 720 人。  
 ※5 募集人数。入学定員は 220 人。※6 各学年の募集人数の合計。収容定員は 660 人。  
 ※7 募集人数。入学定員は 225 人。※8 各学年の募集人数の合計。収容定員は 675 人。  
 ※9 募集人数。入学定員は 200 人。※10 各学年の募集人数の合計。収容定員は 600 人。  
 ※11 募集人数。入学定員は 120 人。※12 各学年の募集人数の合計。収容定員は 720 人。  
 ※13 募集人数。入学定員は 75 人。※14 各学年の募集人数の合計。収容定員は 255 人。

4. 役員の状況（平成28年3月31日現在）

※理事定数8人以上12人以内【現員12人】 監事定数2人又は3人【現員2人】

理事長（常勤）	西川 彭	学園長
理事（常勤）	梶田 叡一	学校長の互選による
理事（常勤）	吉田 明史	学校長の互選による
理事（常勤）	山田 勝美	学校長の互選による
理事（常勤）	森本 重和	学校長の互選による
理事（常勤）	古川 謙二	学校長の互選による
理事（常勤）	西辻 正副	評議員会の選任による
理事（常勤）	青木 徳康	評議員会の選任による
常務理事（常勤）	上嶋 丈一	評議員会の選任による
理事（非常勤）	甘利 治夫	学識経験者
理事（非常勤）	中本 勝	学識経験者
理事（非常勤）	辻 毅一郎	学識経験者
監事（常勤）	松田 親典	
監事（非常勤）	村田 智之	

注) 平成28年3月31日退任

理事（常勤） 森本 重和

平成28年4月1日就任

理事（常勤） 松尾 孝司（学校長の互選による）

5. 評議員の状況（平成28年3月31日現在）

※評議員定数21人以上25人以内【現員25人】

法人職員	西辻正副 仁後公幸 上田全克 福田 修 久保 守 菅田康裕 上嶋丈一 角田道代 青木徳康	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 山口小代美 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 政池 明 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄 新納京子
------	--	-------	--	-------	--

注) 平成28年3月31日退任

評議員 福田 修

評議員 久保 守

平成28年4月1日就任

評議員 北條 哲夫

評議員 上原 朋之

6. 専任教職員の状況（平成27年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

校名	教授	准教授	講師 (大学・短大)	助教	助手	教諭	助教諭	常勤講師 (幼・小・中・高)	職員	計
奈良学園大学	44	18	17	6	3	0	0	0	53	141
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	5	6	3	0	0	0	0	0	10	24
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	45	0	2	11	58
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	36	1	0	3	40
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	29	0	0	2	31
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	0	0	0	22	1	0	2	25
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	25	0	1	1	27
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	31	0	2	1	34
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	6	0	4	1	11
奈良文化幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	5	1	13
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25
計	49	24	20	6	3	201	2	14	110	429

7. 学校別の土地及び建物（平成27年5月1日現在）

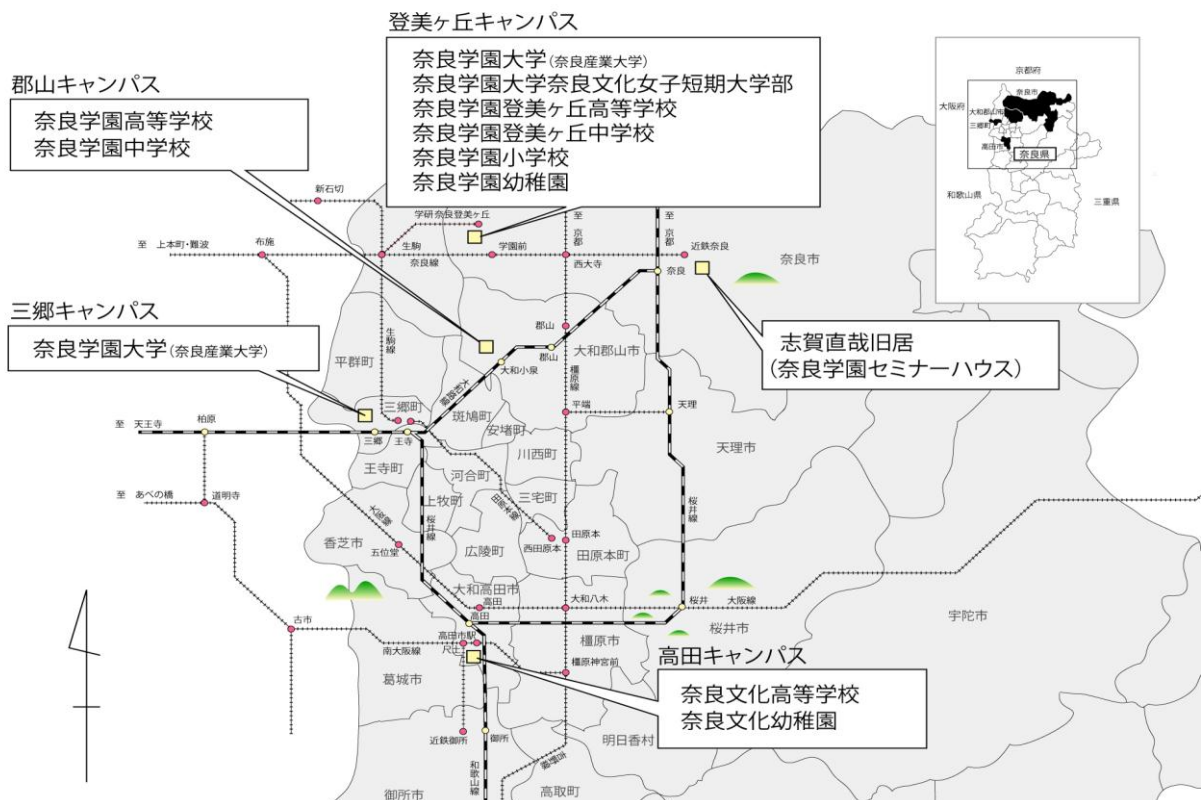
【土地面積】

奈良学園大学	268,017 m <sup>2</sup>
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	65,710 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	71,502 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	20,017 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	20,017 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	23,734 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	2,996 m <sup>2</sup>
奈良文化幼稚園	4,564 m <sup>2</sup>

【建物面積】

奈良学園大学	56,058 m <sup>2</sup>
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	22,981 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	23,846 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	17,440 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	6,394 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	6,091 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	7,368 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	1,169 m <sup>2</sup>
奈良文化幼稚園	1,452 m <sup>2</sup>

8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



### Ⅲ. 事業の概要

#### 1. ハイライト

##### (1) 奈良学園大学（奈良産業大学） 一地域連携と知名度向上に向けて一

大学名称を変更して2年目は、人間教育学部に110名、保健医療学部91名の新入生を迎えてスタートした。学校ボランティアをはじめとする地域と連携した活動が盛んとなり、新たに斑鳩町及び三宅町と連携協力に関する協定を締結した。

人間教育学部では、学生が企画した「科学遊び・学びの広場プロジェクト」が財団法人奈良県青少年会館からの寄付金を活用した「青少年の健全育成事業」に採択された。その他、一般社団法人吉野青年会議所と協働して企画された小学生を対象としたキャンプ事業が実施されるなど幅広い活躍がみられた。

また、9月23日には、奈良学園大学シンポジウム「次世代の教育を考える～未来への提言～」を大阪市にある堂島ホテルで開催した。各校種の教職員をはじめ各方面300人を超える来場者を迎え、変化する教育環境にどのように向き合うかをテーマに、各分野を代表する方々によって議論が交わされた。この中で本学の学生によるプレゼンテーションも行われ、絶大な好評価を得た。

保健医療学部では、翌年度に控えた領域実習に向けて授業と演習を通じて徹底した指導が行われるとともに、国家試験対策のための講習会や模擬試験が開始された。タブレット端末を利用した自学自習システムの充実を図るとともに、各担任との面談を通じて不安材料に対する理解とその克服が進められた。しかし、試験対策などの目の前に迫るものみに捕らわれるのではなく、豊かな感性と世界に貢献できる人材づくりを目指す教育活動も進められた。例えば、タイ王国のマハサラカム大学での研修に学生を派遣するなど、国際看護や国際医療等への興味・関心を啓発する教育にも力を注いだ。

また、前年度より学生募集を停止した既存学部（ビジネス学部、情報学部）においては、全員が自信を持って卒業できるよう、自らが研究に取り組んだプロジェクト演習等を通じて、社会で役立つ多角的に考察する力を身に付ける活動を実施した。その成果は、就職率97.6%（内情報学部100%）に現れている。



シンポジウム



科学遊び・学びの広場プロジェクト



## (2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部（奈良文化女子短期大学）

### —学修成果：ソーシャルスキル自己評価表から—

短期大学部のモットーである「清楚の美・健康の輝き」を具体化した 20 項目の自己評価表を作成した。学修成果を測る目的で平成 27 年度に学生による評価を初めて実施した。1 回生は合計 3 回（入学時、前期末、年度末）、2 回生（1 クラスを除く）と 3 回生は年度末に実施した。評価レベルは各項目 3 段階である。

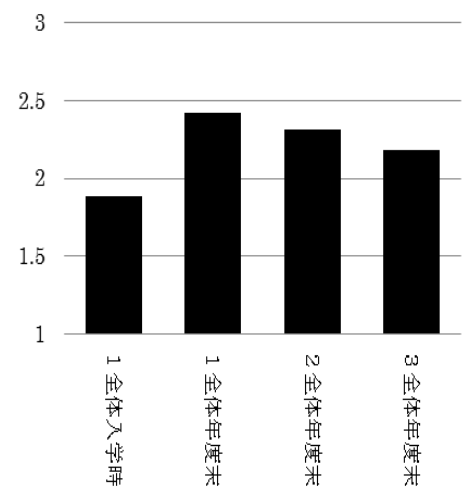
1 回生は入学以降 1 年間で大きく自己評価が上昇し、2、3 回生はほぼその間にあった（図①）。項目別に見ると、1 回生の入学時に低かった項目は「3 自分の考えを述べる。11 規則正しい生活をする。12 バランスの良い食事を摂る。18 何かを探究する姿勢をもつ。19 課題解決への努力をする。20 やり遂げ、充実感のある生活を送る。」である。全体として学生は自分の弱点をよく捉えていると言える。これらを含むどの項目も 1 年を経て、大きく上昇した。

1、2、3 回生がそろって高い評価をしていた項目は、「1 丁寧に書く。8 人の話を聴く。」である。これらについては、確かに日々向上してきているが、さらに一層の向上を目指したい。

これとは別に、全学生を対象に各授業でシラバス到達レベルでの自己評価をしているが、この結果からも上記項目の 3、18、19 に関連する部分で前期から後期にかけて成長があると判断できた。上にあげた各項目に一定の向上が見られたことは、すべての授業やその他の取組の総合的な成果と言えるだろう。

一方、1 回生に比べやや低い傾向がある 3 回生（図①）で、特に低かった項目は「6 時間や期限を守る。11、12 の規則正しい生活とバランスの良い食事」である。これは、3 回生は午後働いていることが多いことに起因すると考えられる。

これらの結果から、ソーシャルスキル表での自己評価は、学生の日々の行動や生活の状況の一端をよく表していると考えられる。この評価を継続することにより、入学から卒業までの学生の変化を追跡できるようになる。さらに平成 28 年度からは、客観的評価が可能な PROG テストを実施予定であり、その結果との比較ができるとより具体的な課題を抽出できると考えている。



【図①学年レベル総合平均】

### (3) 奈良文化高等学校

ー2年目を迎えた食文化コースの取り組みと生徒主体の学校作りー

平成27年度は食文化コースが2年目を迎え、専門教育を開始。郷土食学習（柿の葉寿司や蒟蒻作りなどを体験）、高大連携（奈良佐保短大の先生による郷土料理の調理実習）、地域連携（まなびやの森かつらぎ「みんな de お祭り」や葛城市「ゆめフェスタ in 葛城」などで「桑姫」として活躍）といった多角的なアプローチが行われた。その中から、生徒のレシピにより、葛城特産の桑粉を使って地元のベーカリーが製造するパンとパウンドケーキが生まれ、本校の産学連携で初の本格的商品化として注目を集めた。「桑姫のほっぺ」というネーミングや、ラベルのデザインも生徒によって考案され、新聞各紙で紹介された。桑を中心とした食育を全校体制で推進する計画の本校では、キャンパス内に桑園を整備。3月には生徒らが奈良文化幼稚園の園児と一緒に桑の苗約800本を植樹した。28年度からは校内で葉や実が収穫できる予定である。

また食育と並び、山田勝美校長が着任以来一貫して進めて来た「生徒主体の学校作り」も、奈良文化、女子高、地域連携、といったキーワードにより更なる深化を遂げた。8月には文化服装学院による「なら燈花会ファッションショー」が、11月には大阪芸術大学による「葛城発信アートFAIRファッションショー」が行われ、校内募集に応じて名乗りを上げた生徒多数が出演してスポットライトを浴びた。ショーでは服飾面だけでなく、例えば大学生と協力して照明やビデオ撮影のスタッフを務めたり、動画編集スタッフとして番組を制作して本校ホームページで公開したりするなど、数多くの生徒が各自の希望や適性に合った場で様々に関わり、また活躍しており、こうした活動が本校の新しい校風の形成に大いに寄与している。



桑植樹



ファッションショー

(4) 奈良学園中学校・高等学校 —SSH校として活動を充実—

平成 27 年度は、文部科学省から SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定され 4 年目となった。当事業を高 1、高 2 の両学年で実施し、2 月には公開発表会を実施した。ベトナムでのサイエンス研修は、SS 発展コースに所属する生徒全員が参加した。

また、全国学校・園庭ビオトープコンクールでは、「ドイツ大使館賞」を受賞し、東大で行われた表彰式で実践発表を行った。

本年度の主な教育活動は次のとおりである。

- ① 学外サイエンス学習（京大、神戸大、大教大、大阪府水産技術センター等々での見学や講義）
- ② SS 公開講座（著名な方を招聘して講座を実施）
- ③ SS 出前講義（大阪教育大等の先生が本校で講演）
- ④ ベトナムサイエンス研修（10名の生徒が、12月にベトナムの高校と大学を訪れ、研修と交流。現地の農村や日本企業でも研修。）
- ⑤ 国内研修の実施（八重山諸島、兵庫県豊岡、東京海洋大、阪大等）
- ⑥ 科学系部活動の実践
- ⑦ 地域への発信事業「奈良学塾」の実施



グエンシウ高校サイエンス交流



マングローブ林調査



(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校  
—繋がる学びと教育力—

平成27年度は、「3+4-4-4制」の強化を図るため、人事面での改革を行った。幼稚園(Pre-primary)では園長の下に2名の主任を置き、教学面と広報面の仕事を分担した。小中高では、Primary(小1~4)・Middle(小5~中2)・Youth(中3~高3)に各1名の教頭を配置し、その全体を統括する小中高校長1名を置いた。これによって、課題となっていたMiddle課程の指示系統を明確化し、Middleでの連携を発展させることができた。また、例年行ってきた「3+4-4-4カリキュラムルートマップ」及び「小中高各学年シラバス」の作成をはじめ、「幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への内部進学」の実施もほぼ順調に行うことができた。15年及び12年の教育の流れが固まりつつあると言える。

平成27年度における教育の特色としては、まず幼稚園で「2歳児保育」を開始したことである。計画の段階から反響があり、当初の計画を上方修正して40名を受け入れることになった。さらにここでの入会者を次年度の幼稚園入園者に繋げることができた。異学齢交流活動においては、「尚志祭(学習発表&文化祭)」をPP・PとM・Yに分離開催し、幼小連携や小中連携を強化した。国際交流活動においては、小学校におけるハワイ宿泊学習、高校におけるオーストラリア語学研修の継続に加えて、5月に台湾高校生、6月と11月にJICA訪問団、9月にJENESYS2.0プログラムによる中国高校生、11月にフィンランド教育関係者訪問団などの受入や、昨年度に続いてオーストラリアの連携校からのホームステイ受入など、幼小中高に互って盛んに交流を進めた。体験学習・キャリア教育活動においては、小学校での企業からの出前教室(花王・味の素・南都銀行)や地域の方による講演(奈良新聞社・吉野紙漉き)や、Y1(中3)でのキャリアリサーチ(企業研究所訪問)やキャリアトーク(保護者による職業案内)に取り組み、児童生徒の意識向上を図った。



2歳児保育「いちご組」の活動



JENESYS2.0 中国高校生の訪問

## (6) 奈良文化幼稚園―「わんぱくの森」プロジェクト開始―

- ① 創立 50 周年を平成 28 年度に迎える。そこで記念事業として、「わんぱくの森」プロジェクトを立ち上げた。「遊びは学び」という本園の教育理念を展開するフィールドとして、「わんぱくの森」を位置づけ、「子ども達が夢中で遊び込める園庭」づくりを目指す。このプロジェクトの全体構想（平成 27 年度～平成 30 年度）を練り、予算化し、そして、第 I 期整備として園庭西部分「森の丘」整備を実施した。
- ② 完成した「わんぱくの森」丘ゾーンでは、園庭にできた起伏で遊ぶ子ども達が自然と群れて走り出したり、丸太小屋の 3 階目指して梯子でどんどん登ったり、芝生で転がったり、体全身を使ってのびのびとたくましく遊ぶ姿が多く見られるようになった。
- ③ 外部研修を含め教員研修の機会を多く持ち、教育力の向上を目指した。「わんぱくの森」での教育こそが本園の特色となるように、さらに、保護者にそれを発信できるように、日々の生活の中で実践していきたい。



「わんぱくの森」森の丘ゾーン



新しくできた丸太小屋で遊ぶ子ども達

## 2. 設置校の主な事業と進捗状況

### (1) 奈良学園大学（奈良産業大学）

#### ① 教育活動

- ア) ビジネス及び情報学部による「実践力」を養成するプロジェクト演習では、発表会を開催し、成果の確認を行った。（平成 28 年 1 月 22 日/26 日/28 日/29 日/2 月 3 日）
- イ) 人間教育学部は、将来の教員採用試験合格をめざして「教師塾」を開催している。その一部として「小谷塾」がスタートした。（平成 27 年 5 月 23 日～平成 28 年 3 月 23 日まで毎週水・木曜日開催 全 62 回）さらに、翌年度にスタートする「naragaku GT」（選抜者による）の準備を進めた。また、介護等体験等の実習が始まった。
- ウ) 保健医療学部では、タブレットを使用したスマートラーニングによる学習環境が構築された。専門教育において活用されるだけでなく、休業期間中の国家試験対策演習も自宅学習が可能になった。希望者による国家試験対策模試も実施した。

## ② 研究活動

- ア) 奈良学園大学紀要を2集発行した。第2集(平成27年9月発行)では21編、第3集(平成28年3月発行)では11編の論文等を発表した。
- イ) FD活動において、平成28年2月4日に中部大学大学教育研究センターの寺澤朝子副センター長を招いて講演会を三郷キャンパスで実施した。登美ヶ丘キャンパスでは、人間教育学部の教員が講師を担当し平成27年12月9日、平成28年1月13日、2月10日、3月9日に研究会を実施した。本学の教育に係る教員を対象に公開授業は定期的開催され、授業研究を継続実施した。授業改善シート及び授業評価アンケートも継続実施しWebに公開した。
- ウ) 科学研究費については、現在は24件(内、研究代表12件)が採用されている。分担者はさらに増える見込みである。(昨年度21件(内、研究代表11件))

## ③ 学生支援

- ア) リメディアル教育の一環として、専門の教員の指導の下で高校までの不得意分野を改めて学習できる場を通じて、基礎学力の向上を図っている。

## ④ 社会連携・地域貢献

- ア) 王寺町と共催の「リーベルカレッジ」を6回開催し、延べ204名の参加を得た。初めて開催した「登美ヶ丘カレッジ」は2回行い、延べ83名の受講があった。K-SCAN(けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク)が主催する「けいはんな科学体験プログラム」の講座に参加し、小学生を対象とした体験型の教育プログラムを実施し、4回のシリーズで延べ108名が参加した。公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構(けいはんな推進機構)が奈良県事業「学研都市研究成果活用支援事業補助金」の交付を受けて主催し、本学保健医療学部と共催している「超高齢化社会における生活支援に向けた地域産業創出を考える研究会」は、3回の講演会を開催し、195名の参加を得た。関西学研都市に位置する大学で創る「関西文化学術研究都市8大学連携市民公開講座2015」に参画し、本学担当回は160名の受講生を得て好評であった。
- イ) 三郷町で結成された「産官学地域活性化連絡協議会」ではその一員として積極的に活動に参加した。地域防犯事業「イルミネーション事業」では、三郷駅前ロータリー、近鉄信貴山下駅前、大和川にかかる「多聞橋」をイルミネーションで飾り付け、地域防犯を目的とした明るい町作りに貢献した。観光振興事業「ひまわり植生」では、昨年度に引き続き三郷町の町花である「ひまわり」を植生し、観光振興の手伝いを行った。地方創生事業「コミュニティ開発プロジェクト」は、本学を会場に「みんなでまちづくりを考える公開講座」が開催され、延べ84名の地域の方々が参加した。
- ウ) 大学キャンパス開放イベントを継続実施している。お花見イベント、夏休み花火イベント、マーチングバンド部クリスマスコンサートでは、地域の多くの方々の参加を得た。
- エ) 課外活動の延長で、例年通り、和(やわらぎ)マラソン(王寺町、平成27年12月23日)、奈良マラソン2015(平成27年12月12日)、三郷町 町民マラソン・駅伝大会(平成28年1月24日)、第40回十津川温泉郷「昴の郷」マラソン(平成28年1月31日)、大和川河川敷沿い一斉清掃(平成27年10月24日約80名/平成28年3月6日約100名)等でボランティア活動を行った。また、第7回駅伝交流会(大和郡山市平成27年9月8日)を新たに、ボランティア活動に加えた。

オ) その他、マーチングバンド部は「日本人間教育学会設立記念大会 10/18」「登美ヶ丘フェスタ 10/18」「飛鳥リレーマラソン 11/8」「王寺町ミルキーウェイ 11/21」「三郷町ツーデイウォーク 11/28」「天満警察署防犯パレード 11/30」。陸上競技部は「ふれあいリレーマラソン 9/17」「リレーフェスティバル 10/17」「飛鳥リレーマラソン 11/8(日)」「三宅町子供マラソン 11/27」「奈良RANRAN11/28」にボランティア参加している。

#### ⑤ 国際交流

ア) 友好協定締結校から特別聴講留学生として蘇州科技学院 7 名、黒龍江東方学院 2 名、長江大学 4 名(内半期 1 名)、計 13 名を受け入れた。また、夏季短期研修留学生として台湾屏東科技大学 11 名、青島理工大学 3 名、三峡大学 5 名、蘇州科技学院 4 名、長江大学 2 名、カンボジア・メコン大学 2 名、タイ・スィーパトゥム大学 2 名、計 29 名を受け入れた。

イ) 台湾・屏東科技大学へ 6 名を語学研修留学(2 週間)に派遣した。

ウ) タイ海外看護研修は、マハサラカム大学の協力を受けて保健医療学部 7 名の学生を派遣した。

エ) 東アジア文化交流研修(2 泊 3 日)には、東亜大学校(韓国釜山市)の協力を受けて本学の学生 3 名及び特別聴講生を派遣した。

オ) カンボジア短期研修(8 日間)では、カンボジア・メコン大学(カンボジア)の協力を受けて本学の学生 6 名が参加した。

#### ⑥ スポーツ振興

ア) 硬式野球部は、第 64 回全日本大学野球選手権大会に 6 年連続 19 回目の出場を果たした。4 年次生の庄司力也(投手)は、日本学生野球協会表彰選手に選ばれた。女子バスケットボール部は、第 67 回全日本大学バスケットボール選手権大会に 4 年連続 4 回目の出場を果たした。また 4 年次生のヌンイラ玲美は平成 27 年度女子ユニバーシアード日本代表選手に選ばれ、第 28 回ユニバーシアード競技大会(第 4 位)に出場した。陸上競技部は、第 77 回関西学生対校駅伝(総合 14 位)に出場した。マーチングバンド部(平成 26 年度創部)は全国ステージマーチング大会に出場し、大会講評者特別賞を獲得した。

イ) 昨年度に引き続き、卒業生である中日ドラゴンズの山井大介投手を招いて、第 2 回ベースボールクリニック(平成 27 年 12 月 19 日)を開催した。その他、剣道教室・錬成大会(平成 27 年 12 月 25 日～27 日)等の事業を行った。

ウ) アスリートのための栄養セミナー(平成 27 年 4 月 25 日)、メンタルトレーニング講習会(平成 27 年 11 月 6 日)、救命講習会(平成 27 年 8 月 6 日)等を開催し、スポーツ活動における安全対策の意識啓発を進めた。

#### ⑦ 環境整備

ア) 信貴山グラウンド及び三郷キャンパス内の樹木の剪定整備作業を実施した。

イ) 三郷キャンパス 10 号館空調設備の更新を行った。記念グラウンドの整備を行った。校舎の屋上防水工事を行った。

ウ) 三郷キャンパスに喫煙室を設置し、分煙の取り組みを進めた。

エ) 三郷キャンパスでは、経年劣化している電源電気系統の修繕を順次進めている。

## ⑧ 学生募集

- ア) 「人間教育学部」「保健医療学部」の3年目の学生募集に注力した。高校等の教員に対して、県内・近畿圏を中心に延べ2,730校の高校訪問、延べ2,879校の塾・予備校訪問を行い、学部教育に対する理解の深化を図った。また、受験生に対しては、会場ガイダンス109会場、校内ガイダンス213校に参加し、説明を行った。また、オープンキャンパスは人間教育学部で5回、保健医療学部で6回開催し、延べ487名（内訳：人間教育学部148名・保健医療学部339名）の高校生の参加を得て、本学の特長を伝えた。オープンキャンパス全参加者は、747人（内訳：人間教育学部217名・保健医療学部530名）であった。
- イ) 人間教育学部は、志願者数228名となり、123名の新入生を迎えることとなった。
- ウ) 保健医療学部は、志願者数908名となり、81名の新入生を迎えることとなった。

## (2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

平成27年度は前年度に引き続き、経営改善を図るために教学内容の充実に取り組んだ。その取組の状況を評価され、私立大学等総合支援事業等に採択された。

### ① 教育活動

- ア) レベル別の到達度を設けたシラバスで授業を展開し、学生による到達度自己評価において、ほぼレベル2を達成した。また、実習を柱としたカリキュラムマップを作成するとともにディプロマポリシーの到達度評価（各レベルの表現）の見直しを経て、次年度シラバスを作成した。
- イ) 学習内容をより向上させるために、「能動的学習方策の工夫と実態」を調査した。また、「実習から見えてきた課題」も抽出し、それらの結果を踏まえてFD研修会を実施し、授業方法の改善を検討した。
- ウ) 公開授業期間を年2回設定し、その内容も踏まえて教員で研修会を開催し、授業の改善を図った。また、授業アンケートを計4回実施した。中間アンケートは、変化が見られるように期末アンケートに連動したものとした。その結果、学生の授業満足度は高いが、効果的な時間外学習について課題があることが明らかとなり、対策を検討した。
- エ) 初年次教育の充実に図るために、「キャリアデザイン演習」をその取り組みの一つとして実施した。また、入学時学内オリエンテーションの充実に図るために、長日程のオリエンテーションに変更した結果の振り返りを行い、次年度に向けた改善の方向を明らかにした。
- オ) 教職実践演習の実施に当たっては、授業担当者間で内容や方法の調整を図り、教育現場で想定される具体的な問題を取り上げた。指導法として、ロールプレイや事例検討など、実習成果の補充・深化を図ることをねらいとして具体的な学びの促進を行った。履修カルテの指導については、学生自身の学びの振り返りに対して「manaba folio」（本学のシステム）を通じて担当教員から個別具体の指導助言を2回行った。
- カ) 本学で作成・編集した改訂版「実習の手引き」を学生にテキストとして持たせ、授業や実習事前指導等での積極的な活用を図った。また、実習担当者会議を置き、定期的な点検と検討を行い、その結果を毎回学科会議で検討し、問題点をすぐに整理し非常勤講師も含めすぐに



教育に生かせるようにした。実習園への訪問指導については、全教職員が共通理解を図りながら実施し、実習における学生支援に効果を上げることができた。なお、「幼稚園実習Ⅰ」の受入先確保については、大和郡山市・生駒市・天理市・田原本町の4市町と本学との間で連携協定を結んでいるほか、奈良市・橿原市・宇陀市の3市の受入協力を得ることができている。また、実習参加基準のGPAを始めとする内規運用については学科会議で検討し、適用方法・手順を再確認するとともに、実習延期学生の指導の充実も図った。

キ) 奈良文化を基礎とした本学の教育理念を具現化するため、必修科目として「奈良文化論」の内容を一新して実施した。多分野の専門家を招いて講演、演習を行い、学生にとっては奈良文化や地元の文化に目を向ける機会となった。

ク) モットー「清楚の美、健康の輝き」を具現化した自己評価表を用いて、学生による自己評価を1回生は年間3回、2・3回生は1回行った。この調査によって学生の行動や生活状況の傾向を把握することができた。

ケ) 子育て状況の変化により、「病児保育」へのニーズの高まりを踏まえ、昨年度に引き続き今年度も「病児保育」の授業を開講し、3月15日の卒業と同時に15名が認定病児保育スペシャリストとして認定された。

コ) PROGテストを、試験的に実施し、来年度から本格的に実施することとした。

## ② 研究活動

教員は各自専門分野に関わる研究活動、学会参加、著作物発表を行っているが、それ以外の特記事項を以下に記す。

ア) 紀要第46号(186頁)を発行した。著者18名(奈良産業大学1名、非常勤講師2名、他教育機関2名、本学職員1名を含む)による14報文である。

イ) 前年度各地で行われた研修会参加報告を直近の教授会でそれぞれ報告し、情報の共有化を図った。

ウ) 文科省科学研究費3件継続。このうち1件では海外学会発表及び海外視察を実施した。

エ) 短期大学における幼児教育の在り方に関して、学内4名の教員による継続中の共同研究の成果を、全国保育士養成協議会研究大会及び本学紀要論文にて発表するとともに学内研修会でも報告した。また、教務委員会が中心となった高等教育機関における授業改善の課題に関する研究も、紀要論文や学内研修会を通して報告し、学内で共通認識を高めた。

オ) 特別教授が第23回ミレー友好協会展において「最優秀賞」、第21回BESETO美術祭北京展において「第21回BESETO美術祭北京展大賞(最優秀作家賞)」、第30回国民文化祭・かごしま2015において「南日本新聞社賞」・「和泊町教育委員会教育長賞」受賞した。

## ③ 学生支援

ア) 昨年度より就職力向上、特に公務員試験突破を目指して、プログレス室を設置したことにより、特に本年度においては学生の公立園への関心が高まったと同時に公務員講座への希望者も50名を超える状況となった。今後も本件について引き続き注力していきたい。

イ) 学園祭やフェスティバル等、学生参加を一層推進し、実行力、発表力を養う機会となった。

## ④ 社会連携・地域貢献

ア) 子育て支援事業として奈良市から受託している「つどいの広場」は、「ちびっこ広場」と合わせて8,651名の利用があり、昨年度に比べて5%増となった。利用者の満足度も高い。「ち

びっこ広場」では本学教員の講座や、ゼミ活動を通しての学生のイベント参加もあり、本学の研究や教育に大きな成果を上げている。今年度も、「つどいの広場」でも足育や発達など母親の関心が高いテーマでミニ講座を行ったり、イクメン講座を登美ヶ丘公民館との共催で実施したり地域に開かれた広場づくりを目指した。今後も様々な機関との連携をとりイベントを実施していきたい。

- イ) 公開講座は、子育て親子対象講座として「いっしょに遊ぼう」、一般対象の教養・自己充実講座として「狛犬探訪」、教員・保育士対象講座として「幼児教育講座」を実施した。また、奈良県と連携し、少子化対策の一環として、「ライフデザインセミナー」や「幼児ふれあい体験」を実施した。各講座とも参加者より高い満足度が得られたが、さらに地域の要望に応えたテーマ検討や、参加者を増やすための方策が検討課題となっている。
- ウ) 前年度に引き続き、平成 27 年度も奈良県を中心に近隣の小中高の指導者及び選手を対象に「中高大連携地域バスケットボール教室」の開催を本学アリーナで 5 回実施した。171 名（指導者 36 名、小中高生 135 名）の参加を得て、地域のバスケットボールの普及に貢献した。次年度も継続させたい。

#### ⑤ 環境整備

- ア) 年度限定経費にて、講義室テレビモニター設置（1 教室 2 台）、小児保健室手洗い台増設、講義室暗幕カーテン設置（5 教室）等の環境整備を行った。
- イ) 図書館は、学園大との共同利用の施設として、保有資料全体をまとめて利用できるようにしている。ノートパソコンを備え、グループ学習室もよく活用されている。資料の整備を進める一方、選書、図書展示に学生参加を図って工夫をこらすようにした。また、開館時間を延長することによっても学生にとって利用しやすい環境づくりに努めた。

#### ⑥ めざましいクラブ活動

各クラブの活躍は、クラブ生のみならず一般の学生へも好影響を与え、大学全体に自信と活気をもたらす好要因となっており、学生募集にも好影響をもたらしている。

- ア) バスケットボール部は、全国短期大学体育大会において 8 連覇を達成し、短期大学での地位を確固たるものとした。また奈良学園大学との合同チームでは、関西学生リーグ 1 部で活躍し、4 年連続して、日本インターカレッジ大会にも出場した。
- イ) ソフトボール部は、短期大学単独チームとしてのハンディを克服しながら昨年に引き続き、関西学生リーグ 1 部を堅持し、西日本インターカレッジ大会にも出場し 3 位入賞した。また、日本インターカレッジ大会に出場し奮闘した。
- ウ) 文化部においては、書道部の大仏書道展への入選、茶道部や吹奏楽部の活躍も目立った。

#### ⑦ 学生募集

- ア) 本年度も全教職員による募集体制を維持し、3 年連続で定員確保ができた。  
本学の取り組みを高校訪問・説明会・チラシ等で、詳しく情報発信をした。  
そのため本学の教育内容が質的に向上したことや、入学から就職まで手厚く面倒を見ることが、受験生や高校教員に理解を得られたことが大きい。
- イ) 入学試験においては、アドミッションポリシーに基づき選抜できるよう、入試科目及び面接内容を見直した。

### (3) 奈良文化高等学校

#### ①教育活動

- ア) iPad を使った情報の授業や英語学習法など情報端末機を積極的に活用し教育効果を高めた。
- イ) 食文化コースの専門教育が順調にスタートし、調理実習を年間 20 回実施した。また、食育指導士の指導による味噌作り、素麺手延べ体験などのフィールドワークや食育に関わる出前授業を実施した。
- ウ) 衛生看護科、衛生看護専攻科においては、Web 情報を活用し、効果的な国試対策を行った。看護師試験は 100%の合格には至らなかったが、准看護師試験は 100%の合格率であった。

#### ②生徒等支援

- ア) 教育相談体制に関すること（スクールカウンセラー等）  
毎週 3 回午後にスクールカウンセラーが来校して、生徒・保護者は勿論教員にもさまざまな悩みについてカウンセリングを行っている。
- イ) 高等学校生徒就学支援に関すること  
家計急変により就学の継続が困難となった場合の支援については、学園就学支援規程に基づく支援体制がある。
- ウ) 生徒等に対する表彰等  
新体操部、バスケットボール部、ソフトボール部、少林寺拳法部がそれぞれ全国大会に出場し活躍した。新体操部においては、インターハイ団体 5 位入賞、長野カップ女子シニア団体の部では優勝し、奈良学園栄誉賞を受賞した。また、スポーツで優秀な成績を収めた 4 名に奈良文化栄誉賞が贈られた。

#### ③社会連携・地域貢献

- ア) 第 24 回奈良県産業教育フェアに衛生看護科が参加し、作品展示や実演コーナーとして血圧測定と体脂肪測定を実施した。
- イ) 全校生徒による通学路周辺の清掃活動を実施した。
- ウ) 生徒による動画制作ユニット「きららんぶんぶん」のメンバーが葛城市の見どころを紹介する動画を制作し、完成 DVD を葛城市に贈呈した。
- エ) 奈良燈花会ファッションショー、葛城発信アート FAIR ファッションショーにモデルや撮影・照明スタッフとして、本校生徒が多数参加した。
- オ) 當麻寺周辺を中心に開催された『ゆめフェスタ in 葛城』に茶道部が参加し、地域との連携を深めた。
- カ) 葛城市寺口地区への桑の葉摘み体験を実施し、桑粉を使った菓子作りを通して地域との連携を行った。
- キ) 寺口ファームとの地域連携で誕生した本校生徒の「桑姫」達が葛城市の各イベント会場において桑パン・桑茶の販売を行った。
- ク) 食をより深く多角的に学ぶことを目指して、地元葛城市の株式会社あけぼのパンと連携協定を結び、桑粉入り商品の総称「「桑姫のほっぺ」の商品ラベルが完成し、商品化された。
- ケ) 本校生徒と奈良文化幼稚園の園児と一緒に桑の苗 800 本を植樹した。また、地域交流の場（学園会館一わの広場）に桑の葉の粉末加工を行うための作業場「桑姫作業所」が完成した。

#### ④環境整備

ア) 施設整備については、校舎、寮の新築に伴いセキュリティーを含め、設備の整備が完了し、維持管理に努めている。

キャンパス内の環境整備については、本年度も卒業生が遊歩道「万葉の小径」に卒業記念植樹をし、万葉集などに詠まれた草花が径沿いに次々に植えられて来ている。

イ) 合宿施設については、4月にスポーツ特進コースの生徒を対象にリーダーズ研修を本年度も実施した。また多くのクラブで長期休暇等を利用した合宿を行い実力養成に効果を上げた。さらに、8月と3月には今年度も特進コースの生徒を中心に「勉強合宿」を実施し、受験に備え「自学自習」の習慣と効果的な学習法を身に付けることができた。

#### ⑤生徒等募集

ア) 受験生や保護者に本校のメリットを訴求できるよう工夫をこらした、生徒が参画した「学校案内」を作成した。また、別冊（インフォメーションブック）では食育、進路、学費等の内容を詳細に紹介し、広範囲に持参または送付し、親切丁寧な募集活動を実施した。

イ) 寮の整備が完了し、本年度も近畿各府県の広域地域にも広報活動を展開した。また、受験地域も広がりを見せ、寮は満室近くなり、新校舎・寮の認知度も浸透してきた。

### (4) 奈良学園中学校・高等学校

#### ① 教育活動

ア) SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)として4年目

平成24年度にSSH校に指定され、4年目となった。学外の大学等でのサイエンス研修、大学の先生等に来校していただいたのSS出前講義、SS公開講座、ベトナムの高校・大学とのサイエンス交流、国内研修などを実施し、2月には公開発表会を開催した。ベトナムでの研修には、高2のSS発展コース生(10名)全員が参加した。

全国学校・園庭ビオトープコンクールで、「ドイツ大使館賞」を受賞し、東大での表彰式で実践発表を行った。

イ) 医進コースと進路指導

医進コースの5期生が卒業した。国公立大の医学部(医)には、現浪合わせて14名、獣医学部に1名が合格。私立大医学部(医)には21名、歯学部に4名が合格した。東大へ2名、京大へ13名、阪大へ8名が合格した。

ウ) 国際交流

国際理解教育として、高校1年生の希望者32名がオーストラリアでの海外短期研修プログラムに参加した。夏期休暇中の二週間、アデレード近郊の学校での研修、ホームステイなど異文化体験と英語研修をする良机機会となった。

#### ② 生徒等支援

ア) 日常的には担任が懇切に指導し、生徒をサポートしている。スクールカウンセラー(臨床心理士)は、毎週水曜日に全日、学校で生徒、保護者のカウンセリングに当たっており、信頼されている。家計急変の高校生に対しては、授業料免除の制度もある。

### ③ 社会連携・地域貢献

ア) 地域との連携として、市民向け公開講座「奈良学塾」を2回実施した。1回目は、7月に小学生と保護者を招待し、里山での研修、2回目は2月に、化学実験講座を実施した。また、年2回、生徒会が中心となり、通学路の清掃活動を行っており、地域から好評を得ている。

### ④ 環境整備

ア) 校地内の里山を年次計画で整備してきた。施設設備については、校舎が6年前に新築され、完備した状態である。第一体育館（2階建て、空調完備）、第二体育館、青雲館（武道場、卓球場）、テニスコート（5面）、人工芝のサッカー場、グラウンドがあり、教育環境は充実している。

### ⑤ 生徒募集

ア) 学校説明会の実施、学校外での説明会への参加、塾等への訪問活動などを精力的に実施した。中学入試日の前倒し傾向などのため、昨年度から入試日程を変えたが、適切であったと判断している。今後も状況を見て対応したい。高校は、40名定員に対して志願者が437人であった。入学者は38名（1クラス）で、適切な人数に収まった。

## (5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

### ① 教育活動

ア) 幼稚園では、「2歳児保育『いちご組』」を開設し、39名の入会者を得た。一昨年度から実施している「2歳児わくわくルーム」という体験教室がこの入会者に繋がった。園全体で取り組んでいるマーチング活動については、昨年が続いて園内外での発表活動を行った。園児の体力向上を図るため、従来のスポーツ教室や水泳教室、サッカー教室、さらに体育指導教員による「朝の10分間体育遊び」を新たに実施した。預かり保育では、昨年度同様、夏期・冬期・春期休業中において実施した。

イ) 小学校では、3回目の内部進学推薦及び決定を行い、65名（進学率80%）が中学校に進学することになった。Primary課程での生活科授業や、理科の天体観測会、国語・社会のモンゴル体験教室、企業との連携によるP3（小3）の節水活動（花王）やP4（小4）の金融セミナー（南都銀行）、各学年での宿泊学習等の体験学習も順調に実施することができた。

ウ) 中高においては、高校各学年での長期休暇中の充実講座（補習・補講）や高2（Y3）宿泊セミナーを夏冬春の3回実施した。また、各学年の宿泊研修、第4回目となる高2（Y3）オーストラリア語学研修を実施した。国際交流活動については、5月に台湾高校生、9月にJENESYS2.0プログラムによる中国高校生の受け入れを行い、9月には教育連携協定を結んだオーストラリアからの生徒との交流活動及び生徒の家庭でのホームステイを実施した。

エ) 安全教育については、例年通り1学期に校種単位での防犯教室（奈良西警察署）、7月に幼小中高合同火災避難訓練（奈良西消防署）、7月と8月に教員対象AED救命救急講習、1月に合同地震避難訓練など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。

## ② 生徒等支援

ア) 週 2 回のスクールカウンセラーを配置し、教員との相談及び打ち合わせや、保護者や生徒との定期的な相談（カウンセリング）を行った。

## ③ 社会連携・地域貢献

ア) 毎年の恒例行事として、10 月に全校生及び保護者合同の「第 8 回ふれあい清掃」（地域清掃）を実施した。

イ) 年間を通じて、本校正門前での登校指導を行い、地域の小中学生や高校生の通学の安全について、地域の方と協力しながら取り組んだ。

## ④ 環境整備

ア) 幼稚園遊戯室の屋根となっている築山を整備し、併せて P 棟 1 階の南側にクラス花壇を設置し、小学校の生活科・総合学習の授業に対応できるようにした。

## ⑤ 特色ある教育活動

ア) 本校の教育内容の特色である「15 年（12 年）一貫教育システム」の流れを示した「3+4-4-4 ルートマップ」及び「各学年シラバス」を完成させ、保護者に提示した。

イ) 児童生徒向けの講演会活動としては、小学校ではサイエンス教室として、3 月に「元南極探検隊員」による講演会、「味の素」による出前授業を実施した。中高では、2 月に柔道家野村忠宏氏による登美ヶ丘講演を実施した。

ウ) キャリア教育として、中 3（Y1）で 9 月にキャリアリサーチ、11 月に保護者によるキャリアトーク講座、高 3（Y4）で人権教育講演会を実施した。

## ⑥ 生徒等募集

ア) 幼稚園においては、従来の年少 35 名定員を 40 名定員とした。体験入園や園庭開放に加えて、「2 歳児わくわくルーム」「2 歳児保育」など、園内での活動を積極的に行うとともに、子育てサークルへの出前保育など園外での活動を充実させた。平成 28 年度の入園生は、年少 49 名、年中 3 名（年中合計 33 名）であった。

イ) 小学校においては、校内での見学会、体験授業、イベントなどに加えて、新たにテスト体験会を実施（79 組参加）した。また、校外においても幼児教室主催による相談会や講演会に多数参加した。さらに、近隣の私立小学校 2 校と連携して、3 校合同の広報イベントを、商業施設を借りて実施した。入試については 10 月の A 日程入試に加えて、2 月に B 日程入試を実施し、入学者の獲得を図った。平成 28 年度の入学者は内部進学者 23 名、外部入学者 34 名、合計 57 名であった。

ウ) 中学校においては、入試日程の変更を行い、A 日程、B 日程（午後入試）、C 日程の 3 回実施した。また、英検資格者への加点、1 回の受験料での複数受験可能とするなどの工夫も行った。これらは塾訪問を繰り返し行う中で得た情報を元に、受験生のニーズに応えたものである。受験者は大幅に増えたものの、平成 28 年度の入学者は 141 名であった。

エ) ホームページにおいて学校発信のブログに取り組み、それを SNS を利用して広く学校の活動内容を伝える取り組みを行った。

## (6) 奈良文化幼稚園

### ① 教育活動

- ア) 外遊びの重要性、経験させたい内容等を教員が研修し共通理解を深め、法人本部の支援のもと本園に合った園庭づくりを計画した。在園児の遊びを深めながら整備を進めることができるように、4 期に分けて段階的に園庭整備を行うこととなった。「わんぱくの森」プロジェクトの開始である。「園児が夢中になって遊び込める園庭づくり」を柱とし、遊びの重要性を発信しながら実践をこれからも重ねていきたい。園庭に新たにできた山や丘、木製遊具等で遊ぶ子ども達の様子を観察すると、全身を使ってのダイナミックな遊びや群れになっての遊びが自然と増えていると感じる。また、意欲的な姿、満足感のある表情を嬉しく見守っている。心身両面からの効果検証を行っていきながら、計画をさらに進めていきたい。
- イ) 自然の直接体験を大切に、月に 1 回ないしは 2 回「みどりの幼稚園」を実施した。高田キャンパスにある広場や畑、丘等にでかけ、木登りや虫探し、草花摘み、かくれんぼ等心を開放して、ゆったりと過ごす時間を持った。今年度は、この活動に奈良文化高等学校保育コースの生徒も参加し、共に遊び、交流する機会を持った。また、親子ネイチャーゲーム大会も実施し、自然の中での教育活動の重要性を保護者と共感した。「みどりの幼稚園」を通して、「自然」と「人」と触れ合う時間を多く持つことができた。
- ウ) 「丈夫な体をつくる」ために外遊びの機会を増やし、裸足の活動を多く取り入れた。裸足での活動に抵抗を感じる園児が減り、率先して裸足で遊ぶ場面が増えた。また、丈夫な体づくりの優秀食品として発酵食品を取り上げ、保護者と食育研修会を行った。手作り味噌の講習会を実施し、園と共に家庭でも子どもの「丈夫な体づくり」を進めることを啓蒙した。

### ② 研究活動

- ア) 「遊びは学び」という本園教育理念に立ち返り、研修を重ねた。
1. 「運動能力」と「挑戦意欲」が深まる
  2. 子ども同士が学び合う
  3. 「感性」を育む
- この 3 要素を展開できる遊び場、環境について研修した。外部研修も積極的に行い、実践園に足を運び学び、「わんぱくの森」プロジェクトに活かすことができた。
- イ) 園児保護者、奈良文化高校生、地域の人々が集い、「丈夫な体づくり」を目指し共に食育研修を行う機会を設けることができた。世代を超えた交流は互いに尊重し合う場面となった。

### ③ 環境整備

- ウ) 「わんぱくの森」第 I 期園庭整備が計画通りに完了し、園庭西部分に「森の丘」ゾーンができた。平坦だった園庭に山と丘ができ、挑戦要素を盛り込んだ木製遊具が設置され、また、植栽によって木々と芝生が子ども達の生活を包んでくれる環境となった。散水用に浅井戸を掘り、利用できるようになった。

### ④ 園児募集

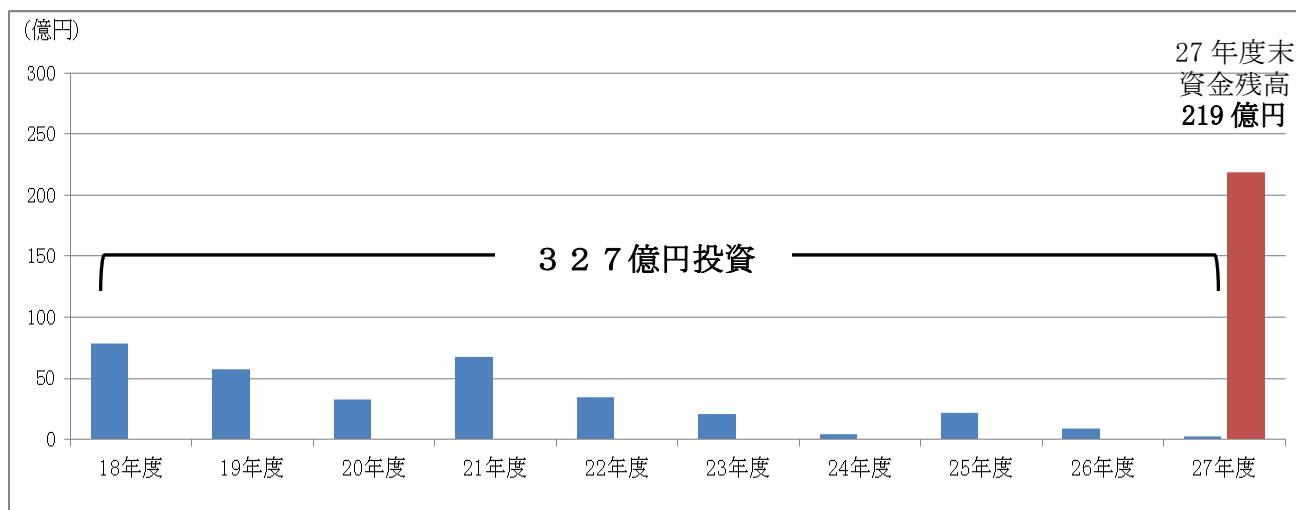
- ア) 募集定員を上回る受付となった。平成 28 年度も前年度とほぼ同数の園児数となる（全園児数：205 名）。

## IV. 財務の概要

### 1. 最近の投資と財務の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成 18 年度から平成 24 年度にかけて大規模な投資を行った。その結果、学園内に耐震上問題となる建物はなくなり、施設設備面における競争力が強化された。平成 25～26 年度においても、三郷・登美ヶ丘両キャンパスの大学学部新設に伴う整備事業に取り組み、さらに充実した教育環境が整った。

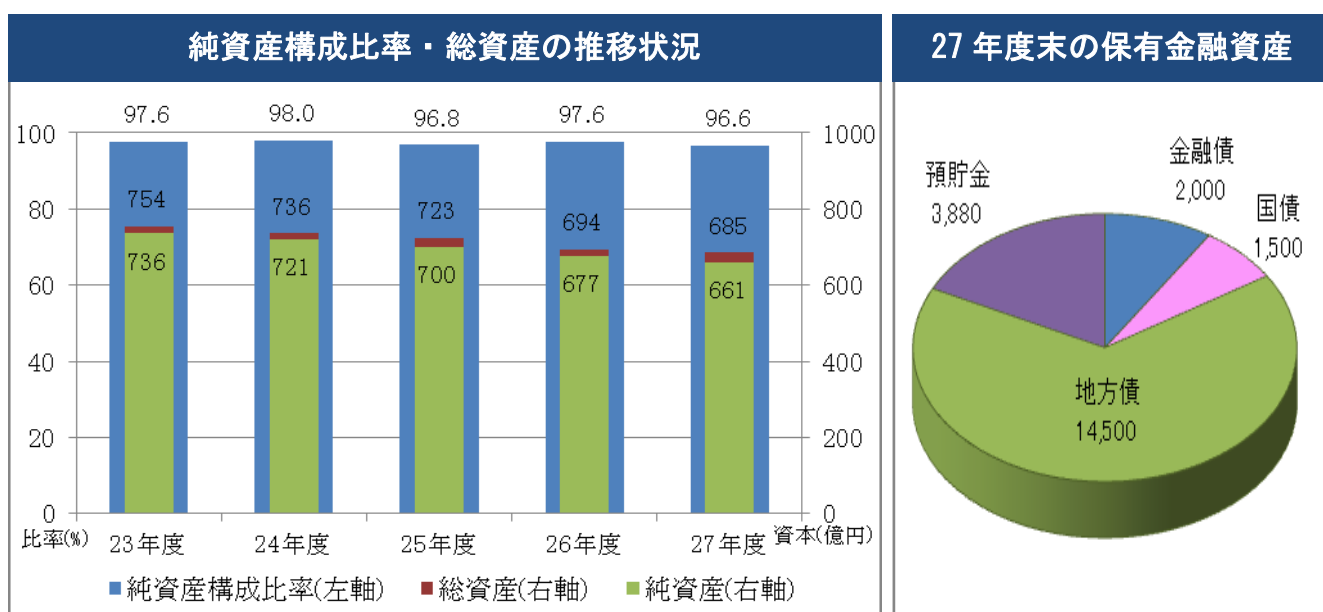
下表は、平成 18 年度から平成 27 年度までの投資実績をグラフ化したものである。これらの開発資金を全て自己資金で賄ったうえで、平成 27 年度末時点においてなお、充実した資金残高を保有している。



また、財務指標をみると、奈良学園の純資産構成比率は極めて高く、学校法人としての純資産の充実ぶりを示している。

奈良学園のスケールを示す総資産は、奈良県下大学法人の中で最上位の地位にある。

下表は、平成 23 年度以降の純資産構成比率、総資産の推移状況及び平成 27 年度末の保有金融資産を示したものである。





## 2. 平成 27 年度決算の概要

### (1) 資金収支の概要

収入の部合計から前年度繰越支払資金及び資産売却収入他を減じた当年度実収入は 6,997 百万円、支出の部合計から次年度繰越支払資金及び資産運用支出を減じた当年度実支出は、前年度比 1,626 百万円減少の 6,892 百万円となった。

当年度は、人件費支出が退職金要因により前年度比 660 百万円減少、その他の支出のうち、前期末未払金支出が前年度比 794 百万円の大幅減額となったことが資金支出減少の主要因である。また、次年度繰越支払資金は 3,605 百万円で前年度に比べ 125 百万円増加した。

#### 平成 27 年度 資金収支計算書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,049,714,000	3,047,031,876	2,682,124
手数料収入	61,641,000	62,637,664	△996,664
寄付金収入	13,280,000	11,371,347	1,908,653
補助金収入	1,152,624,000	1,407,401,999	△254,777,999
国庫補助金収入	165,600,000	327,843,000	△162,243,000
地方公共団体補助金収入	985,259,000	1,078,263,994	△93,004,994
その他補助金収入	1,765,000	1,295,005	469,995
資産売却収入	2,038,600,000	5,542,415,000	△3,503,815,000
付随事業・収益事業収入	109,867,000	108,205,514	1,661,486
受取利息・配当金収入	142,035,000	152,519,060	△10,484,060
雑収入	193,476,000	197,371,749	△3,895,749
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	438,836,000	457,555,496	△18,719,496
その他の収入	2,066,241,258	6,325,479,938	△4,259,238,680
資金収入調整勘定	△650,405,758	△984,241,059	333,835,301
前年度繰越支払資金	3,479,748,641	3,479,748,641	
収入の部合計	12,095,657,141	19,807,497,225	△7,711,840,084

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,110,633,000	4,013,037,715	97,595,285
教育研究経費支出	1,035,169,000	964,373,348	70,795,652
管理経費支出	400,824,000	393,021,821	7,802,179
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	54,211,000	46,495,212	7,715,788
設備関係支出	251,278,000	131,450,234	119,827,766
資産運用支出	2,000,000,000	9,309,211,690	△7,309,211,690
その他の支出	1,607,419,405	1,840,011,682	△232,592,277
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△359,866,000	△495,460,424	135,594,424
次年度繰越支払資金	2,975,988,736	3,605,355,947	△629,367,211
支出の部合計	12,095,657,141	19,807,497,225	△7,711,840,084

(2) 事業活動収支の概要

当年度事業活動収入は 4,865 百万円で、事業活動支出は 6,464 百万円となった。  
 これにより基本金組入前当年度収支差額は 1,599 百万円の支出超過となった。支出超過の主要因は近年の施設設備の充実に向けての大規模投資により減価償却資産が高まり、減価償却額が 1,057 百万円にまで高騰したことによる。なお、当年度の基本金組入額は 115 百万円となった。

平成 27 年度 事業活動収支計算書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
経常 収支	学生生徒等納付金	3,049,714,000	3,047,031,876	2,682,124
	手数料	61,641,000	62,637,664	△996,664
	寄付金	10,920,000	10,998,347	△78,347
	経常費等補助金	1,152,624,000	1,398,803,299	△246,179,299
	国庫補助金	165,600,000	327,843,000	△162,243,000
	地方公共団体補助金	985,259,000	1,069,665,294	△84,406,294
	その他補助金	1,765,000	1,295,005	469,995
	付随事業収入	109,867,000	108,205,514	1,661,486
	雑収入	19,173,000	60,710,397	△41,537,397
	教育活動収入計	4,403,939,000	4,688,387,097	△284,448,097
	人件費	4,055,422,000	3,895,059,593	160,362,407
	教育研究経費	2,028,733,000	1,934,560,110	94,172,890
	管理経費	494,354,000	479,279,288	15,074,712
	徴収不能額等	0	789,300	△789,300
	教育活動支出計	6,578,509,000	6,309,688,291	268,820,709
	教育活動収支差額	△2,174,570,000	△1,621,301,194	△553,268,806
	教育活動外収入計	142,035,000	152,519,060	△10,484,060
	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	142,035,000	152,519,060	△10,484,060	
経常収支差額	△2,032,535,000	△1,468,782,134	△563,752,866	
特別 収支	特別収入計	7,392,000	24,477,096	△17,085,096
	特別支出計	7,240,000	154,857,725	△147,617,725
	特別収支差額	152,000	△130,380,629	130,532,629
[予備費]		20,000,000		20,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△2,052,383,000	△1,599,162,763	△453,220,237
基本金組入額合計		△242,820,000	△115,776,493	△127,043,507
当年度収支差額		△2,295,203,000	△1,714,939,256	△580,263,744
前年度繰越収支差額		△232,557,602	△232,557,602	0
基本金取崩額		6,602,000	0	6,602,000
翌年度繰越収支差額		△2,521,158,602	△1,947,496,858	△573,661,744

(参考)

事業活動収入計	4,553,366,000	4,865,383,253	△312,017,253
事業活動支出計	6,605,749,000	6,464,546,016	141,202,984

(3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は 68,462 百万円で、前年度末に比べ 971 百万円の減少となった。有形固定資産は、減価償却を主要因として 908 百万円減少した。特定資産は 266 百万円増加、その他の固定資産は 2 百万円増加となり、固定資産合計では 639 百万円の減少となった。流動資産合計は、332 百万円減少した。

負債及び純資産では、負債の部合計が 2,315 百万円で前年度末に比べ 627 百万円増加した。また、基本金及び翌年度繰越収支差額の合計である純資産は前年度末比 1,599 百万円減少の 66,147 百万円となった。

平成 27 年度 貸借対照表  
(平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	62,290,766,772	62,930,320,719	△639,553,947
有形固定資産	45,945,258,507	46,853,592,462	△908,333,955
土地	22,500,690,451	22,513,704,451	△13,014,000
建物	19,535,773,518	20,163,875,454	△628,101,936
その他の有形固定資産	3,908,794,538	4,176,012,557	△267,218,019
特定資産	11,326,730,371	11,060,000,000	266,730,371
その他の固定資産	5,018,777,894	5,016,728,257	2,049,637
流動資産	6,171,612,077	6,504,016,173	△332,404,096
現金預金	3,605,355,947	3,479,748,641	125,607,306
その他の流動資産	2,566,256,130	3,024,267,532	△458,011,402
資産の部合計	68,462,378,849	69,434,336,892	△971,958,043
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,010,017,339	844,882,315	165,135,024
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	1,010,017,339	844,882,315	165,135,024
流動負債	1,305,158,707	843,089,011	462,069,696
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,305,158,707	843,089,011	462,069,696
負債の部合計	2,315,176,046	1,687,971,326	627,204,720
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	56,370,841,129	56,229,533,317	141,307,812
第 2 号基本金	266,730,371	292,261,690	△25,531,319
第 3 号基本金	11,000,000,000	11,000,000,000	0
第 4 号基本金	457,128,161	457,128,161	0
翌年度繰越収支差額	△1,947,496,858	△232,557,602	△1,714,939,256
純資産の部合計	66,147,202,803	67,746,365,566	△1,599,162,763
	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、純資産の部合計	68,462,378,849	69,434,336,892	△971,958,043

## (4) 平成27年度 財産目録 (概要)

財 産 目 録

I 資産総額	68,462,378,849 円
内 基本財産	45,955,926,401 円
運用財産	22,506,452,448 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	2,315,176,046 円
III 純資産	66,147,202,803 円



区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	475,908.17 m <sup>2</sup> 22,500,690,451 円
建物	122,478.30 m <sup>2</sup> 19,535,773,518 円
図書	397,980 冊 4,279 点 1,264,211,327 円
教具・校具・備品	40,837 点 969,408,646 円
その他	1,685,842,459 円
2 運用財産	
現金預金	3,876,746,318 円
その他	18,629,706,130 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	68,462,378,849 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	1,010,017,339 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,305,158,707 円
負 債 総 額	2,315,176,046 円
純資産 (資産総額－負債総額)	66,147,202,803 円

監査報告書

平成 28 年 5 月 27 日

学校法人奈良学園  
理 事 会 御中  
評 議 員 会 御中

学校法人奈良学園

常勤監事 松田 親典   
監 事 村 田 智 之 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 27 年度(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 27 年度の収支の状況及び平成 27 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上